

5.1.3 課題研究支援セミナー

開講講座数：4 講座（前年度 3 講座）

開講回数：4 回（前年度 3 回）

受講者数平均：23.5 人（前年度 15.1 人、前々年度 16.8 人）

- ・昨年度までの受講者数平均が 15、16 人だったのに対し、今年度は平均が 23.5 人と数を伸ばした。研究手法を学ぶなどの受講しやすいテーマであったり、逆に現代社会の諸問題に肉薄したテーマだったり、生徒の興味・関心やニーズに合った講座を開講したことが理由として考えられる。
- ・アンケート結果から、生徒自身の社会問題への関心、あるいは課題解決への追究心、探究心などの高まりが推測される。学校での課題研究の取り組みや仕組みが定着し、生徒の中で日常的に問題と課題に対する追究心・探究心が芽生えていると考えられる。

(1) 目的

大学や研究所等の外部機関から専門家を招き、生徒の課題研究に資する講演会やワークショップを開催する。高度な専門性に触れさせることで生徒の探究心を高めるとともに研究の方法の基礎を学ばせること、グローバル化社会の諸相を総合的に捉える力をつけること、課題研究の大学での研究への連続性を理解させることを目的とする。

(2) 実施概要

毎週水曜日 6 限の「Personal Project」（4 年）・「課題研究」（5 年・6 年）の時間帯に校内にて開催し、原則として希望生徒が受講する。ただし今年度は SGH 海外研修「香港・深圳フィールドワーク」に参加する 4 年・5 年生 12 名を第 4 回のセミナーに事前学習として参加させた*。

各回の講師・講義テーマ・場所・受講数は以下の通りである。

回	日時	講師	講義テーマ	場所	受講数
1	2019 年 5 月 22 日 (水)	筑波大学蹴球部パフォーマンス局データ班所属 スコット アトム さん (本校 4 回生)	「データ分析とスポーツ」 スポーツアナリティクスの 観点からデータの分析方法 と活用方法を学ぶ	E 棟 201 教室	25 人
2	2019 年 5 月 29 日 (水)		「AI とスポーツ」人口知能 (AI) の可能性をスポーツと いう観点から考える	E 棟 201 教室	23 人
3	2019 年 6 月 19 日 (水)	立教大学社会学部 長 有紀枝 先生 AAR 難民を助ける会理事長	「日本は難民に冷たい国 か?」「紛争は誰がどこで おこすのか?」難民、国内避難 民問題の捉え方	E 棟 201 教室	24 人
4	2019 年 11 月 27 日 (水)	立教大学法学部政治学科 倉田 徹 先生	「香港の若者はなぜ立ち上 がるか? 雨傘運動と逃亡犯 条例改正反対デモ」	C 棟総合 メディア センター	35 人*

(3) 分析

生徒たちの課題研究の支援とすべく、研究のコツや手法などを聞く機会、社会問題に見識のある専門家による講話を聞く機会を設けた。

参加者数の平均や生徒の事後アンケートなどからも、開催した講座テーマが十分に生徒の関心を集めるものであったこと、講話の内容が充実していたことがうかがえる。第 1 回・第 2 回の講話と第 3 回・第 4 回の講話とでは、前者が身近な先輩から研究のポイントや研究手法について、後者が

特定の社会問題について最新の情報もふまえた専門家からの講話であった。いずれの開催回も受講者が20名強となっており、昨年度までの平均受講者数15人～17人に対して今年度の受講者数は明らかに増加した。アンケート結果からも「テーマが面白そうだったから」が全期間の回答の39%を、「研究課題に役立てたいと思ったから」も34%となった。なお、「自分の進路に関わるから」は5%と少ない割合であるものの、前年度までと比較すると数を伸ばした。また、「先生に勧められたから」は18%となっていることから、生徒がセミナーへ足を運ぶきっかけとして教員のリマインドや参加の促しが効果的であることも明らかである。

各セミナーの告知方法の工夫や教員の声掛けによる努力も、受講者数の増加に貢献していることは間違いない。しかし、今年度のアンケート結果を鑑みるに、生徒自身の社会問題に対する興味・関心が高まっていること、また、課題研究への取り組みから問題や課題に対して追究したり探究したりすることが「スタンダード化」してきているのではないだろうか。本校での課題研究への取り組みが体系化され、生徒や教員間で定着してきたことによる影響もあると思われる。

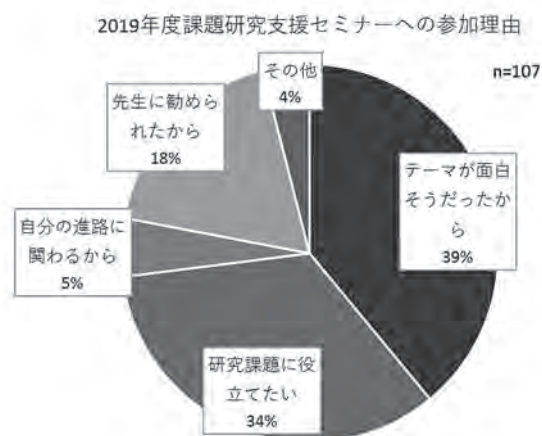


図1 2019年度課題研究支援セミナーへの参加理由

<第1回セミナーの様子>



<第2回課題研究セミナー告知ポスター>

SSH

2019年度 第2回 課題研究支援セミナー

テーマ：AIとスポーツ
人工知能(AI)の可能性を
スポーツという観点から考えてみよう

★日程
2019年5月29日(水)
6限 13:40～
★場所 E棟201

★申込 sgh@tguiss.jpへメール。
教務室前にも申込み用紙あります。(締切5月20日)

講師紹介：筑波大学蹴球部パフォーマンス局データ班所属 4年

スコット・アトムさん(本校4年生卒業生)

<同じ講師を連続してお願している意味>

アトム先輩は、蹴球部のトレーナー班とともにAIを活用してアシレックリハビリテーションの補助アプリを開発し、起業しています。

第1回に引き続き第2回も来てもらいます。敢えてそのようにお願いし、第1回を開いた人が、より深くスポーツとテクノロジーの関わりやAIの可能性について理解し、考えられるように「学びの体系」を作っています。

第1回を開いた人はぜひ第2回も参加することをお勧めします！

AIは医療や介護、まちづくりや農業、言語習得などにもかわりの深い分野です！